

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)／幾田
伸司

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

① 教材研究、授業設計、模擬授業などを受講者が実践することを通して能力・知識の習得を図るとともに、相互に評価し合う場を取り入れ、授業に対する省察力の育成を図る。
② 受講者が主体的に活動する形態の授業(模擬授業、指導案作成、相互評価、討議など)を多く取り入れる。
③ 到達目標を明示するとともに、毎時の課題に対する取り組み、授業時における発言やパフォーマンスなどと合わせて総合的に評価を行う。

2. 点検・評価

目標①授業内容、②授業方法については、学部前期科目「初等中等教科教育実践Ⅲ」「国語科教育特論」、学部後期科目「中等国語科授業論」、大学院科目「国語科授業研究」「同演習」において、演習発表や模擬授業、及びそれに基づく共同批評と討議を取り入れた授業を行った。同様の形態は継続して実践してきたが、前年度、及び今年度前期科目の授業評価アンケートの結果では、受講者自身の実感として肯定的に受け止められている。
目標③については、前期科目「初等国語科教育論」において毎時の課題をふまえた評価、上記科目においては授業時の発言やパフォーマンス、討議への貢献度などを取り入れた評価を行った。評価に対する疑義もなく、おおむね有効に機能したと考えている。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ① Iで挙げたように、受講者が主体的に活動する形態の授業(模擬授業、指導案作成、相互評価、討議など)を取り入れ、実践的能力の育成を目指す。
- ② 授業に対する感想収集を行い、受講生の考えや意見を授業に反映させるように努める。
- ③ 学生・院生相互が忌憚なく発言し合える学習環境を作ることに努める。また、それぞれの研究課題に応じて、適宜、助言・指導を行う。
- ④ 学生・院生の相談には随時応じ、学生・院生と良好な関係を築くように努めるとともに、生活・学習の両面について支援を行う。

2. 点検・評価

- ① Iで述べたような内容・方法の授業を実施した。おおむね肯定的に受容されたと考えている。
- ② 前期科目「初等国語科教育論」では課題に合わせて授業に対する意見・要望を毎時収集し、次時の冒頭にコメントをつけて紹介した。また、要望は授業に反映させるように努めた。
- ③④ 学生・院生が積極的に話し合える学習環境を作ることに努めた。また、論文指導をはじめ、授業の事前指導、教員採用試験対策など、授業外でも指導・支援を行った。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ① 国語教科書研究、教材分析論についての研究を進め、学会発表、学会誌等への投稿など、研究成果の公開を行う。
- ② 学内外の研究者と連絡して、上記課題、及び授業研究、教師教育などについての研究を進め、科研費に申請し、採択を目指す。

2. 点検・評価

- ① 目標で掲げた各研究領域等について、著書1(共著)、紀要論文3点(単著2・共著1)を公刊した。
- ② 共同研究の成果について、全国大学国語教育学会で3件(単独1件、共同2件)、中国四国教育学会で1件(単独)の研究発表を行った。
- ③ 国語科授業研究の共同研究については、今春の全国大学国語教育学会でこれまでの研究成果の報告を行う。また「国語教科書における「学び」像の史的研究」について、科研費補助金に申請した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ① 附属学校運営委員会、カリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会をはじめとする各種委員会委員として、大学業務に携わる。
- ② 教育実習生の授業を可能な限り参観し、受け入れ校園との関係を図る。

2. 点検・評価

- ① 附属学校運営委員会委員、カリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会委員として、学内業務に貢献した。
- ② 附属校での授業参観・指導助言を教育実習生に対して積極的に行い、受け入れ校園との連携を図った。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- ① 普段から附属校園教員との研究交流を図るほか、研究発表会・授業研究会等の指導助言や共同研究にもかかわり、附属学校教員との連携を図る。
- ② 現職教員との研究会への参加、教育支援アドバイザーの登録、校内授業研究会への参加など、地域と連携する教育・文化活動に積極的に参加する。
- ③ 教員免許状更新講習、10年次研修など、社会・地域から要請される講習を開講する。

2. 点検・評価

- ① 附属小学校校内研究の共同研究者として研究交流を行うとともに、学部附属連絡協議会(平成25年6月・平成26年2月)で各校園教員との情報交換を図った。また、実習生の授業も延べ十時間以上参観し、必要に応じて助言を行った。
- ② 現職国語科教員との月例研究会の開催、教育支援アドバイザーの登録・指導、校内研究に対する指導助言、第34回徳島県小学校国語教育研究大会での招待講演を行うとともに、各種研究大会へ参会する等、地域と結びつく教育・文化活動を積極的に実践した。
- ③ 国語指導力10年次研修「国語科教材研究の方法と実際」(平成25年8月)、教員免許状更新講習「国語科教育におけるリテラシーのとらえ方」(同8月)、国語指導力向上講座(総合教育センター 同8月)を開講した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ・「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」に協力し、「カリキュラム・ガイドブック」の作成、「教科内容学に基づく小学校教科専門科目テキスト 国語」の執筆を行った。
- ・修士課程教員養成カリキュラム研究開発委員会「平成25年度学内研究会」において、「教科教育」カリキュラムについて報告を行った。